

井尻公民館だより

(2023年1月1日発行)

<令和5年1月号>

(第226号)

<連絡・問い合わせ先> 館長 窪田 道忠 ()
主事 相澤陸奥実 ()

門松やおもへば一夜三十年

松尾芭蕉



絵手紙愛好会

中村廣一

新年

あけましておめでとう

ございます

本年も宜しく

お願いいたします



昨年中は激動の年でした。清水寺で恒例である一年間を一字で表す漢字は「戦」でした。

コロナ感染との戦い、ロシアのウクライナへの侵攻で未だに戦いがつづいており、直接戦いしてなくても関係国も武器、食料、石油、ガス等々で、そのために物価上昇、イン

フレを起こしこれとの戦いも、世界中に影響が、我が国でも目には見えないが、防衛の為の防衛増税の攻防が。

嬉しい事の戦いでは、サッカー・ワールドカップでのサムライブルーの活躍が日本中に元気をもらいました。又、天皇杯サッカーでは、我山梨のV F 甲府が優勝。

今年も不透明感ありで、気を緩めることなく新たな年を過ごして行きましょう。

公民館に於いても、コロナ感染が収まらず、活動が鈍っておりますが、定例で行っている、各愛好会の皆さん、元気で活躍中です。今年も公民館を宜しくお祈りします。

花いっぱい運動

市の補助事業花いっぱい運動で、プランタンに植栽しました、春と秋に分けて行っています。



上井尻地区の祭典堤灯「油障子」に関して

上井尻地区では毎年10月15日の「諏訪大明神祭典」の際、地区内に油障子（灯籠）を設置しています。

以前は「門」として地区内道路に設置していたようですが、今は上井尻公会堂前に設置しています。

「油障子」は武者絵などを描いた直径約30センチ、高さ約100センチの円筒状の灯籠を設置する際、雨よけとして灯籠の屋根部分に使われた障子紙のこと。

障子紙は油を染み込ませていたため、油障子と呼ばれた、現在は雨よけの障子紙だけでなく、灯籠も含めて「油障子」と総称されている。

長い歴史があり上井尻地区の財産であります祭典灯籠ですが、劣化が激しく新調することとなりました。

平成25年度の地区総会で了解され毎年一戸1,000円を積立てることとなり実行されておりました。

令和4年10月に制作完了、15日、日原宮司様お招きし清祓いの儀を執りおこないました。

今回の件に於いて、多くの皆さん方にはご苦勞ご協力頂きました。これからも地域の伝統文化を継承して行く事が大事と思います。

上井尻地区の油障子は「賤ヶ岳の七本槍」と呼ばれる、加藤清正ら豊臣秀吉の家臣七人が描かれております。

—2—



豆知識

冬の寒さの中で、緑に輝く葉っぱをつけたまま過ごす植物たちがいます、どうして、寒い中、枯れずに緑のままでいられるのでしょうか。

それらの植物は、冬の寒さの訪れを見据えて、きちんと準備しているのです。

緑色の葉っぱは、冬でも、太陽の光を受けて栄養を作る光合成という働きをしています。この働きをするためには、冬の寒さで凍ってはいけません。

冬の寒さにさらされても凍らない性質をみにつけなければなりません。

そのために、これらの植物は、冬に向けて、葉っぱの中で、凍らないための物質を増やします。それは糖分です。糖分というのは、「砂糖」の仲間です。

冷蔵庫で通常の水と砂糖を溶かして砂糖水を凍らせてみると、砂糖水の方が凍りにくい、溶ける砂糖の濃度ますます凍りにくくなります。

液体の水が個体の氷に変わることは「凝固する」と言う、それが生じる温度が「凝固点」でふつうの水は、凝固点は0℃です、砂糖水は凍る温度が低くなります。これが「凝固点降下」とよばれます。

糖分を増やした葉っぱは、冬の寒さで凍らずに、緑のままでいられるのです。実際には、ビタミン類やアミノ酸なども溶け込むので、それらの物質による凝固点降下の効果により、ますます凍りにくくなります。

寒さを乗り越える野菜も、樹木の葉っぱと同じように糖分などを増やして、冬の寒さをしのぎます。そのため、寒さを乗り越えてきた野菜、ダイコンやハクサイ、キャベツ、ニンジンなどは、よく「甘い」と言われますよね。

冬に出荷されるホウレンソウがありますが、暖かい温室で栽培されているが、出荷前にわざわざ、一定期間、温室の中に冬の寒風を吹き入れて育てる、

「寒じめホウレンソウ」という物があります。糖分を増やし、甘味を増す事と、味が濃くなるのが狙いです。

寒じめホウレンソウ

「植物の生きるしくみ」より
参照



(川柳)

(井尻公民館川柳愛好会) 2022/11/25

日本一あの富士山も活火山
活入れど何もせぬ子で親寝込み
マラソンで活躍する子ほほ真つか
就活し婚活のあと終活を
うちの嫁活発過ぎていつも留守
身の丈たかの生活出来る今が良い
急務だよ日本経済活性化
ガセネタも活字になれば信じられる

(久保 晃)

(三井厚子)

(田辺たみ子)

(古屋典子)

(雨宮江身子)

(中村廣一)

(関口正次)

(飯島武志)

(俳句)

(井尻公民館俳句愛好会) 2022/12/10

クリスマス辻の地蔵のすまし顔
山茶花のいろに染まりし厨窓
深き谷抱きて山の眠りをり
風邪に臥す妻にひと言一人酌む
咳けばメジロ目を剥き藪に入る
電車降り桜紅葉の中を行く
静けさを破る大きな父の咳
しわぶきで隠すおもいや風の中
さりながら憂ひに厚し初暦

(飯島武志)

(野村可ね子)

(飯島和子)

(増田英仁)

(小林昂平)

(三森美恵子)

(小笠原一子)

(三柵 淳)

(鶴田光子)

(短歌)

冬空に挽ぎ残されし百匁柿
オレンジ色も何だか衰し
サッカーの試合の熱い応援を
解説を聴き日々楽しんだ

(古屋和子)

悲しみは心の底に苦は顔に

喜びこそは心身に出る

宗教が人を不幸にするなどは

サタンであつて宗教でなし

(久保 晃)